

左から、施設整備課 池戸さん、  
学校施設課 太田係長、施設整備  
課 本間さん、中村係長、石崎さん。

# 12 施設整備課 Facility Development Section



最新  
現場事例  
2

# 東京都豊島区

## 『消滅可能性都市』脱却に向け 学校トイレを大改修！

トイレを新しくして  
選ばれる学校に

今、豊島区は学校トイレの大改修に取り組んでいます。

区内には、小学校22校、中学校8校がありますが、多くは昭和30～40年代に建てられた古い校舎。トイレは主に和式、床は古いのもりやすい湿式で、旧態依然とした状態でした。

「なかでも、入り口が男女共用で、内側は簡易的な仕切りがあるだけというのが大きな問題でした」（同区施設整備課 池戸直幸さん）。保護者からは「トイレを何とかしてほしい」という要望が後を絶ちませんでした。

また、同区では「新1年生」は、通学区域に隣接する学校であれば、指定された学校以外も選べる「隣接校選択制」を採っています。が、「トイレを含む設備の新しさが、学校を選ぶ指標の一つとなってしまう」（教育部学校施設課 太田由佳学校施設担当係長）ことも課題になりました。校舎の

トイレがあまりにも古いと、教育内容にかかわらず人気のない学校になってしまう可能性があるからです。

さらに、2014年に、豊島区は都内で唯一「消滅可能性都市\*」と指摘されました。

そこで、「女性にやさしいまちづくり」を重要な施策の一つに掲げ、その一環として「学校トイレ緊急改善推進事業」を行うことに。

2016年から18年度までの3年間で、区内の全小中学校のトイレを洋式化し、入り口は男女分離して仕切りをつけ、床は乾式としました。

2016年度の予算は5億1594万円で、これまでに小学校4校、中学校2校のトイレを改修しました。

「古い校舎は、建物の構造や実際の配管の位置が保管している図面と違うなど、当初の図面と工事後の内容が異なるケースもあるため、思わぬ支出に備えた予算編成が必要です」（施設管理部 中村信浩施設整備担当係長）

\*日本創成会議が発表。少子化と人口減少が止まらずに存続が危ぶまれるとされたのは896自治体。2010年から30年間で20～39歳の女性人口が5割以上減ることが目標。

# 西巢鴨中学校

2017年に創立70年を迎える伝統ある中学校。約260人の生徒が学ぶ。校舎は古く、「以前は、詰まりやにおいの問題など、トイレに関する心配ごとは毎日あった。今はきれいになり、安心してられる」と脇田校長。



②



④



③



⑤

①カウンターには明るい色の洗面器で、ガラスブロックともコーディネート。非接触で手が洗える自動水栓で衛生的に。②便器はすべて温水洗浄便座に。③1階には男子トイレと多機能トイレ(だれでもトイレ)を設置。④小便器に近くて使用させるよう、配色をくっきり。⑤1階の多機能トイレ内。



①

## DATA

竣工年月/2016年10月  
所在地/東京都豊島区  
南大塚3-18-1  
生徒数/264名  
(2017年4月現在)  
主/豊島区  
設計/茜設計  
施工/建築:坂本建設  
電気:吉田電設  
設備:初見建設工業



理部石崎義幸さん)

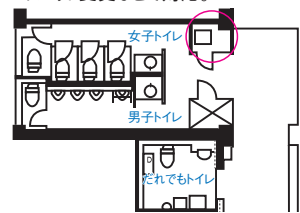
「トイレの古い壁などもすべて取り払っての工事でした。新しいトイレが出来上がったから詰まりが発生したりしないように、学校の敷地の外に出る下水管まで高圧洗浄をかけるなど、徹底してきれいになりました」(施設管理

## 配管の高圧洗浄で トイレ詰まりを予防

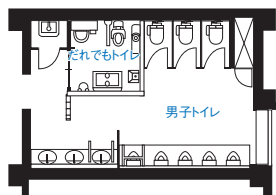
実際のトイレ改修に当たっては、便器の数やデザインなどについて、設計の段階から各学校側の意見も聞きながら進めていきました。工期は、ほとんどの学校で4カ月ほど。

## さくら小学校 (P24) 1F 改修後

設計図面と実際の建物構造が違って、レイアウト変更などで対応。

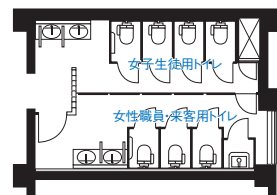


### 【1階 男子生徒用+多機能トイレ】



既存のトイレスペースをうまく活用し、入り口付近の一角に多機能トイレを設置。

### 【2階 女子生徒用+女性職員・来客用トイレ】



女子生徒用と女性職員・来客用のトイレはガラスのパーティションで仕切り、空間を明るく。

音の出る撤去工事は夏休み中に済ませ、新学期からは音の出ない敷設作業を中心にするなど、授業にも配慮しました。

# さくら小学校

区の西北端に位置する。2017年に創立15周年を迎える。



入り口付近の手洗い横壁はガラスブロックを取り入れ、気配が感じられるように。



それぞれのトイレの中の個室ブースの一つには手すりを配置。



嘔吐で汚したときなどに利用する保健室のシャワーコーナー。



掃除流しは男女共用で省スペース。巾木高まで床材を巻き上げ、清掃性配慮。



豊島区では多機能トイレのスペースが許せばオストメイトを設置。おむつ交換台やベビー用チェアなどできるだけ多くの機能を入れている。

## DATA

竣工年月/2016年10月  
所在地/東京都豊島区長崎  
6-16-1  
児童数/377名  
(2017年4月現在)  
施主/豊島区  
設計/白井正男建築工房  
施工/建築:伊藤興業  
電気:唐沢電気  
設備:パイブ技研



# 駒込小学校

まもなく100周年を迎える。トイレはやさしい色を選んで。



掃除がしやすいように壁掛式の便器に。ドアは緊急時には外側にも開く設計になっている。



低学年が使うこともあるので、低リッブの大便器を各階に設置。



清潔に使える洗面ボウルとカウンターに継ぎ目がない一体型洗面台。



廊下には傾斜のある鏡付き流し台。身長差にも配慮。



小便器の床には嫌なにおいや尿の飛び散りを解決する床材を使用。

## DATA

竣工年月/2016年11月  
所在地/東京都豊島区  
駒込3-13-1  
児童数/420名  
(2017年4月現在)  
施主/豊島区  
設計/茜設計  
施工/建築:小松原工務店  
電気:小暮電機商会  
設備:信和管工



暖房便座への行列解消に  
全トイレを温水洗浄便座化

トイレの設備については、「手洗いの自動化」「照明の人のセンサー化」「小便器の自動洗浄化」「大便器の温水洗浄便座化」「入り口ドアをなくす」などを全施設の標準としました。

「実は昨年の改修までは、温水洗浄便座の設置は各トイレに二つでした。ところが、温かい便座のあるトイレにはかり子どもたちが並ぶ、という声が上がってきました。家庭で普及していることもあり、今年度からはすべて温水洗浄便座を採用することにしたのです」(太田さん)

こうした最新設備について「生徒たちは喜んでくれると思いますよ」と目を細めるのは、西巣鴨中学校の脇田禎彦校長です。

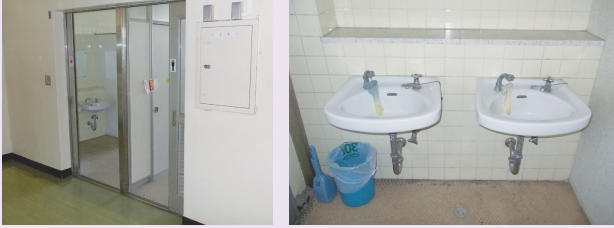
「特に、体が変わってくる小学校高学年から中学生にかけての女子にとって、温水洗浄便座があるかないかは、非常に大きな違いだと思います。恥ずかしがる年代ですから、家では普通にあっても学校にも欲しいとまでは言えないですからね」

また、手洗いの自動化や小便器の自動洗浄化など、トイレ内

# 豊島区小学校の 改修前トイレ

学校設立後、改修はしているものの、古い和式の大便器が多く、湿式床での問題も大きかった。

## 駒込小学校



「建てられたのが古く、そもそも数十年前までは、男子も女子も同じトイレを使っていて、それを強引にパーティションで分けていました。狭くて暗く、湿式の床のためじめじめしていて、しかも家とは違う和式トイレ。子どもたちが行きたくないトイレでした」と野口校長。また、トイレ内の洗面台は蛇口をひねる古いタイプだった。

## さくら小学校



「以前のトイレは、男子と女子の区別がほとんどなく、真ん中で簡単に区切られているだけ。パーティションは上が開いていましたので、例えば、男子トイレにいると、女子が入ってきたのがすぐわかるような状態でした。プライバシーの面でちょっと問題でしたし、声は上がってきていみせんでしたが、子どもたちには使いつらかったでしょうね」(阿部校長 取材時)

## 朋有小学校



「トイレそのものは古く、見た目はきれいではなかったのですが、子どもたちはそれに慣れてしまっていました。ただ、用務主事さんがいつもとてもきれいに掃除をしてくれていたもので、清潔に使えました」と西村校長。また、各トイレに一つあった洋式便器が大人用だったため、特に低学年の子どもたちには使いつらさもあったとか。

# 朋有小学校

児童数約 460人。校名は論語に由来する。



3階女子トイレ。照明は人感センサー。照明を個別につけずに済むよう、トイレブースの壁は天井まで立ち上げていない。



節水型の大便器の採用で、環境にも配慮して。



マイクロ波内蔵の小便器で、見た目もすっきり。



特別支援学級があり、使いやすいようにシャワー室や洗濯室、多機能トイレがまとめて設置されている。



### DATA

竣工年月 / 2016年12月  
所在地 / 東京都豊島区  
東池袋4-40-1  
児童数 / 463名  
(2017年4月現在)  
施主 / 豊島区  
設計 / 茜設計  
施工 / 建築・小松原工務店  
電気・吉川電機工業所  
設備・NOM



に非接触の場所が増えたことで、子どもたちの健康に変化が起きた可能性も示唆されました。

さくら小学校の阿部勇知校長(取材時)は、「今後、データを取って比較していかなくはなりません」と前置きしながら、「トイレが新しくなつてから例年よりインフルエンザや感染性の胃腸炎にかかる子が減った感じがします」と言います。

工事が終わったばかりの朋有小学校でも、「小便器の洗浄ボタンが濡れていて『押すのが嫌だった』という子が以前はいました」が、それもなくなるでしょう。感染症の心配が減り、自動洗浄になつてよかつたと思います」(西村浩校長)と喜ぶ声が。

また、駒込小学校の野口守久校長も、「学校は児童が日中のほとんどを過ごす場。快適に過ごせなければいけません。今までは行きづらいトイレでそれができなかった。前倒しで改修をしてもらい、トイレの問題が解決して本当によかつたと思います」とやさしい笑顔で語ります。

多くの人を笑顔に変えている豊島区のトイレ大改修。完成する2年後にはさらに多くの笑顔があふれることになるでしょう。